

環境対策調査特別委員会行政視察報告

- 1、日時 令和7年2月4日～5日
- 2、研修先 ・徳島県上勝町 ・徳島県徳島市
- 3、研修項目 ・上勝町ーゼロ・ウェイスト、木質バイオマスについて
・徳島市ーSDG s 未来都市について

○上勝町について

人口 1,331 人、世帯数 708 世帯。農業と林業中心の小さな町であるが、40 年ほど前から彩事業（葉っぱビジネス）に取り組み、80 歳過ぎのおばあちゃんでも、年間 2 千万円以上の売り上げをしている町として有名である。

この上勝町が平成 15 年、全国で初めて「ゼロ・ウェイスト宣言」をして廃棄物ゼロに取り組んでいる。

令和 2 年に、町内に 1 か所だけあるゴミステーションを「ゼロ・ウェイストセンター」としてリニューアルし、住民が 40 種類以上に分別するスペースはもちろん、業者が回収に来るまでのストックヤードやリサイクルショップなども併設している。

上勝町には、ごみ収集車はなく、住民一人一人が廃棄物をこのセンターに持って来て、分別をして回収ボックスに入れて行き、資源として利用できるものは業者に引き取ってもらう。

回収ボックスには、廃棄するための費用と、資源として引き取ってもらう収益とが記載されており、住民のリサイクル意識を高めている。

生ごみは、各家庭でコンポストなどで堆肥化して利用されており、プラスチックや紙などを含め、全体のリサイクル率は 80 % 以上という。

上勝町は、山間部の町だが、リサイクル意識の高さを反映して、廃棄物の不法投棄はほとんどないということであった。

木質バイオマス事業については、森林整備の際に発生する木材をチップにして、町営温泉施設の燃料として利用しようということでやられているが、温泉施設の老朽化や燃料費の高騰などにより、経営は厳しいということであった。

○徳島市の SDG s 未来都市について

徳島市は、令和 4 年に SDG s 未来都市に選定され、「SDG s で町の未来を語ろう！持続可能なわくわくするまち・徳島の実現」を掲げ、各種団体や大学教授等で構成された SDG s 未来都市実現協議会を設立し、取り組みを行っている。

取り組みの一つは、ダイバーシティ社会の実現であり、子どもたちの声を反映するため、子供たちの取り組みに対する助成や表彰、民間企業と連携してイベントや出前授業などを実施している。また、女性の声を反映させるため、女性・若手起業家育成支援「フェムテック」の実証実験や女性活躍応援ポータルサイトを立ち上げている。

もう一つの事業は、パートナーシップ連携強化事業である。現在、33 の民間企業との包括連携が進んでおり、周遊船の動力を再生可能エネルギーにしたり、平日は公用車、休日は観光客が利用できるカーシェアの実証実験を行っている。そのほか、ペットボトルの回収や食品ロスの削減などにも企業として連携して取り組んでいる。

民間との連携が進んでいるのは、企業からの提案が多いとのことだったが、行政だけでは難しいことも、企業や外部団体の協力により実現していくことも多々あり、外部からの提案を真摯に受け止めることが持続可能な社会づくりのポイントになると感じた。